



2025年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年1月10日

上場会社名 株式会社市進ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 4645 URL <http://ir.ichishin.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福住 一彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役統括本部本部長 (氏名) 尾和 保弘 (TEL) 047-335-2840
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第3四半期の連結業績(2024年3月1日~2024年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	13,430	3.4	413	△3.3	250	△8.1	67	△49.2
2024年2月期第3四半期	12,988	3.9	427	2.0	272	△4.6	133	△12.4

(注) 包括利益 2025年2月期第3四半期 118百万円(△57.5%) 2024年2月期第3四半期 279百万円(50.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第3四半期	7.47	—
2024年2月期第3四半期	13.45	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期第3四半期	13,570	1,864	13.4
2024年2月期	13,009	2,735	20.7

(参考) 自己資本 2025年2月期第3四半期 1,821百万円 2024年2月期 2,699百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2025年2月期	—	0.00	—		
2025年2月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の連結業績予想(2024年3月1日~2025年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,359	2.3	971	3.2	765	0.5	365	0.5	36.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 3社 (社名) 株式会社ライブコアサポート、
 有限会社錦秋会、有限会社龍馬進学研究会 除外 4社 (社名) 株式会社典和進学ゼミナール、株式会社時の生産物、株式会社プレジャー・コム、紙ふうせん株式会社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年2月期3Q	10,604,888株	2024年2月期	10,604,888株
② 期末自己株式数	2025年2月期3Q	2,460,793株	2024年2月期	650,693株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年2月期3Q	9,085,347株	2024年2月期3Q	9,935,260株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項につきましては、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境に改善の兆候が見られ、景気が緩やかな回復基調にある一方で、円安や資源価格高騰による物価上昇や金融資本市場の変動の影響、さらには人手不足が高水準で続くなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループにおきましては、「一生涯を通じた幅広い『学び』の機会を提供することで、ともに人間力を高め、笑顔あふれる社会を実現する」をグループの基本理念とし、教育サービス分野及び介護福祉サービス分野の2つを主要なビジネスセグメントとして事業展開を行っております。学びの場、生活支援の場を通じて、より良いサービスの提供に努めることで、豊かな人生、笑顔あふれる社会の実現を目指し、ステークホルダーの皆さまへ貢献できるよう、継続企業（Going Concern）として永続的な発展を目指しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、グループ全体の売上高は前年同四半期に比べプラスで推移いたしました。一方、経費面におきましては、物価高に加え、教材面の充実、採用人件費への投資により、売上高でのプラス以上に増加いたしました。

当第3四半期連結累計期間における売上高は13,430百万円（前年同期比103.4%）、営業利益は413百万円（前年同期比96.7%）、子会社株式取得関連費用61百万円の計上などにより、経常利益は250百万円（前年同期比91.9%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は67百万円（前年同期比50.8%）となっております。なお、前期には投資有価証券売却益78百万円を特別利益として計上していたため、前年比では税金等調整前四半期純利益、親会社株主に帰属する四半期純利益でこの影響がでております。

セグメント別の概況は以下のとおりです。

<教育サービス事業>

教育サービス業界におきましては、様々な教育制度改革が進行するなど、大きな変革の時期を迎えております。学習塾部門では、低学年からの学習指導、英語の学習指導、高校生への大学受験指導を、引き続き注力ポイントとし、在籍生徒数につきましては、グループ各社とも予算に対して順調な集客ができております。注力ポイントの一つである英語の学びという点におきましては、英語4技能をバランスよく習得できるよう学習環境の変化に応じた教材の刷新をしております。英単語テストでは、小中高一貫学習用の全39段階の単語集を新規に作成いたしました。生徒一人一人の進度に合わせ、学習段階に連動したテストを実施することで、受験合格に必要な単語力の定着をより一層強化してまいります。また、学習塾の拠点展開としましては、市進学院において、引き続き人口増加中のつくばエクスプレス沿線でのドミナント展開に注力しており、同沿線の流山セントラルパーク教室を夏期講習から、柏たなか教室を冬期講習からそれぞれ開校しております。

一方、経費面におきましては、人材の適正配置、教室面積の適正化など、継続して費用統制に取り組んでおります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は売上高11,220百万円（前年同期比101.2%）、セグメント利益（営業利益）219百万円（前年同期比102.5%）となりました。

<介護福祉サービス事業>

介護福祉サービス業界におきましては、高齢者人口の増加により今後も介護サービスの需要は益々高まることが見込まれる一方で、人材確保や介護保険制度への適切な対応が重要課題となっております。当第3四半期連結累計期間におきましては、これまで人事交流を続けてまいりました東京、埼玉に拠点のある4つの介護福祉サービス事業会社を9月1日付で「株式会社いちしんウエルフェア」として統合いたしました。これにより、専門的な知識、技術の共有がこれまで以上に深化し、一時的な人員減少の際にもよりスムーズな対応が可能となるなど、運営の効率化を実現してまいります。事業の拡大を通じて、ご利用者の皆さまの多様なニーズ・お困りごとへの対応を強化し、さらなる安心・安全につなげていけるよう、今後もグループ全体として事業規模、事業領域を拡大するべく運営してまいります。

経費面におきましては、物価高に加え、採用人件費などが増加しておりますが、人材の適正配置、稼働率の向上など、さらなる利益率向上に努めてまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のセグメントの経営成績は売上高2,210百万円（前年同期比116.1%）、セグメント利益（営業利益）193百万円（前年同期比90.9%）となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は13,570百万円(前連結会計年度比104.3%)となりました。主な要因は建物及び構築物並びに受取手形、売掛金及び契約資産の増加などによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は11,706百万円(前連結会計年度比113.9%)となりました。主な要因は長期借入金の増加などによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は1,864百万円(前連結会計年度比68.1%)となりました。主な要因は自己株式の増加などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年4月9日に発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。また、本資料に記載されている業績見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,282,696	4,319,145
受取手形、売掛金及び契約資産	857,584	1,001,120
商品及び製品	217,630	175,811
原材料及び貯蔵品	8,175	7,199
その他	842,078	850,439
貸倒引当金	△20,516	△11,261
流動資産合計	6,187,646	6,342,454
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,421,172	1,631,620
土地	662,482	716,531
リース資産（純額）	560,755	516,303
その他（純額）	120,724	148,845
有形固定資産合計	2,765,135	3,013,301
無形固定資産		
のれん	253,920	322,792
映像授業コンテンツ	192,058	184,623
その他	212,779	185,086
無形固定資産合計	658,759	692,503
投資その他の資産		
投資有価証券	649,314	770,623
敷金及び保証金	1,697,376	1,679,993
その他	1,051,307	1,071,678
投資その他の資産合計	3,397,998	3,522,295
固定資産合計	6,821,892	7,228,100
資産合計	13,009,539	13,570,554

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,998	15,124
1年内返済予定の長期借入金	968,899	1,094,500
未払金及び未払費用	1,414,690	1,446,721
未払法人税等	77,270	40,018
契約負債	420,240	523,228
賞与引当金	258,792	134,924
その他	371,323	573,060
流動負債合計	3,520,214	3,827,577
固定負債		
長期借入金	4,647,857	5,737,464
リース債務	502,225	442,460
退職給付に係る負債	1,190,692	1,264,042
資産除去債務	229,230	272,681
その他	183,378	161,933
固定負債合計	6,753,383	7,878,582
負債合計	10,273,598	11,706,159
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,476,237	1,476,237
資本剰余金	1,244,427	1,244,427
利益剰余金	△35,643	△67,352
自己株式	△255,444	△1,146,013
株主資本合計	2,429,576	1,507,299
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	272,056	309,989
繰延ヘッジ損益	△1,302	1,124
為替換算調整勘定	△12,823	△13,141
退職給付に係る調整累計額	11,724	16,437
その他の包括利益累計額合計	269,655	314,409
非支配株主持分	36,709	42,686
純資産合計	2,735,941	1,864,394
負債純資産合計	13,009,539	13,570,554

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
売上高	12,988,306	13,430,710
売上原価	10,994,416	11,433,520
売上総利益	1,993,890	1,997,190
販売費及び一般管理費	1,565,956	1,583,453
営業利益	427,933	413,736
営業外収益		
受取利息	8,773	9,762
受取配当金	9,603	16,135
雑収入	19,767	24,577
営業外収益合計	38,144	50,474
営業外費用		
支払利息	80,798	82,186
持分法による投資損失	32,000	9,710
子会社株式取得関連費用	26,498	61,841
控除対象外消費税等	28,612	33,839
雑損失	25,856	26,303
営業外費用合計	193,766	213,880
経常利益	272,312	250,330
特別利益		
固定資産売却益	14,586	-
投資有価証券売却益	78,978	-
原状回復費戻入益	-	9,182
賃貸借契約解約損戻入益	-	3,255
その他	226	1,569
特別利益合計	93,791	14,006
特別損失		
固定資産除却損	74,524	83,617
特別損失合計	74,524	83,617
税金等調整前四半期純利益	291,578	180,720
法人税、住民税及び事業税	96,283	103,938
法人税等調整額	55,167	2,971
法人税等合計	151,450	106,909
四半期純利益	140,127	73,810
非支配株主に帰属する四半期純利益	6,501	5,976
親会社株主に帰属する四半期純利益	133,625	67,833

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
四半期純利益	140,127	73,810
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	135,674	37,932
繰延ヘッジ損益	3,189	2,426
為替換算調整勘定	△2,613	△318
退職給付に係る調整額	2,914	4,713
その他の包括利益合計	139,164	44,754
四半期包括利益	279,292	118,564
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	272,790	112,587
非支配株主に係る四半期包括利益	6,501	5,976

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結財務諸表計上額 (注)
	教育サービス	介護福祉サービス	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	11,084,979	1,903,327	12,988,306	—	12,988,306
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,084,979	1,903,327	12,988,306	—	12,988,306
セグメント間の内部売上高又は振替高	63,686	—	63,686	△63,686	—
計	11,148,666	1,903,327	13,051,993	△63,686	12,988,306
セグメント利益	214,722	213,211	427,933	—	427,933

(注) セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

中間連結会計期間において、トップケアサイエンス有限会社株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「介護福祉サービス」のセグメント資産が671,592千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

中間連結会計期間において、トップケアサイエンス有限会社を子会社化したことに伴い、「介護福祉サービス事業」においてのれんが発生しております。当該事象によるのれん増加額は、60,624千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2024年3月1日至2024年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結財務諸表計上額 (注)
	教育サービス	介護福祉サービス	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	11,220,095	2,210,615	13,430,710	—	13,430,710
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,220,095	2,210,615	13,430,710	—	13,430,710
セグメント間の内部売上高又は振替高	76,979	—	76,979	△76,979	—
計	11,297,074	2,210,615	13,507,689	△76,979	13,430,710
セグメント利益	219,998	193,737	413,736	—	413,736

(注) セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

中間連結会計期間において、株式会社ライブコアサポート株式及び有限会社錦秋会株式を取得し、連結の範囲に含めております。また、当第3四半期連結会計期間において、有限会社龍馬進学研究会株式を取得し、連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、「介護福祉サービス」のセグメント資産が696,528千円増加、「教育サービス」のセグメント資産が43,683千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

中間連結会計期間において、株式会社ライブコアサポート及び有限会社錦秋会を連結子会社化したことに伴い、「介護福祉サービス事業」においてのれんが発生しております。また、当第3四半期連結会計期間において、有限会社龍馬進学研究会を連結子会社化したことに伴い、「教育サービス事業」においてのれんが発生しております。当該事象によるのれん増加額は、「介護福祉サービス事業」において91,387千円、「教育サービス事業」において22,584千円であります。なお、株式会社ライブコアサポートの連結子会社化に伴い発生したのれんの金額90,382千円は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年7月19日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,810,100株を取得しております。この結果、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が890,569千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において、自己株式が1,146,013千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
減価償却費	375,190千円	403,873千円
のれんの償却額	36,246	45,100